No.10

評 様式10

課題対応取組報告書 【共通】

名称	旭区地域包括支援センター
提出日	令和 8 年 6 月 19 日

カテゴリー（※主なものをひとつチェック）				
	□	地域や専門職とのつながり等	☑	社会資源の創設（居場所づくり等）
	□	認知症高齢者等の支援	□	自立支援・介護予防・健康づくり等
	□	その他（ ）		

活動テーマ	住み慣れた地域で自分らしく生活をするために
地域ケア会議から見えてきた課題	【地域の関係が希薄で複合的な課題を抱える世帯が増えている】 ①地域ケア会議の事例ではいずれも認知症等精神疾患（疑い含む）ケースであり、地域から孤立していたり、独居や複合的な課題がある世帯などキーパーソンが不在のケースが目立つ。 ②地域住民に正しい認知症への理解が深く浸透していない。 ③事例の半数以上はケアマネジャーからの相談であり、最も身近な専門職であるケアマネジャーが対応に苦慮している状況がある。
対象	地域住民、専門職
地域特性	旭区包括圏域の高殿・高殿南・大宮地域には関目高殿・千林大宮駅があり、交通の便が良く、区役所・区民センター等がある。また、阪急オアシス、ライフ、サンディ等のスーパーもあり、生活しやす環境である一方、城北川が横断しており、移動が不便な面がある。 高齢化率は大阪市の24.3%と比較すると大宮地域31.6%、高殿地域29.1% 高殿南地域30.2%であり、認知症に関する相談割合も35%と高い。高殿地域には高齢化率57%、独居率46%の集合住宅がある。 精神疾患の方が65歳を迎え、包括が対応する事例が増加し、その方々も対応が増えてきているとともに、ケアマネジャーから複合的な課題を抱える事例の相談も多い。
活動目標	①支援困難な状況になる前に早期に必要な支援につながるよう、高齢者のみならず、地域住民に包括を知ってもらい、気になる人がいるなどの情報から早期介入につながるよう虐待や権利擁護についても周知啓発に取り組む。 ②認知症の方々が地域から孤立しないよう、地域住民等の認知症に対する認識が高まり、「認知症」は他人事ではなく、自分事として捉えることができるよう、また予防啓発活動を通して地域の輪となるよう引き続き支援する。 ③ケアマネジャーの複合的な課題を抱える事例や支援困難事例等の対応力の更なる向上に向けた後方支援。
活動内容（具体的取組）	①-1介護相談等開催 ふれあい喫茶や百歳体操等つどいの場にて包括の周知を行うとともに等を実施した。 ①-2高齢者宅の個別訪問の実施 A住宅の管理会社と包括、ブランチとの協働により高齢者宅の戸別訪問を実施し、生活状況や困り事等の聞き取りを実施。包括・ブランチの周知を行った。 ②-1認知症映画会・講座の開催 ３包括と共催にて、認知症をテーマにした映画「ペコロスの母に会いに行く」を上映。認知症強化型包括と共催にて、身近な地域の会館で認知症ミニ講義及び相談会（ちょっこ相談会）を開催した。 ②-2認知症予防啓発活動 「もの忘れ予防ゲームリーダー養成講座」（全５回）を開催し、ゲームリーダーの養成を行うとともに、これまでの受講者を対象にフォローアップ講座を開催しゲームリーダーの後方支援を実施。 もの忘れ予防及びつどいの場として旭区在宅サービスセンター及び大宮会館にて、「もの忘れの気になる人の会」をっ開催した。 ③自立支援協議会高齢・障がい部会との合同研修会の開催、地域ケア会議の開催
成果（根拠となる資料等があれば添付すること）	①-1 ふれあい喫茶等のつどいの場にて介護相談等を実施（定例5か所で実施） ①-2 75歳以上高齢者宅47世帯を訪問。（対象82世帯のうち不在、キャンセル35世帯） ②映画会では9割以上が良かった、参考になったとの意見であり、認知症ミニ講座では、参加者全員がわかりやすかったとの回答であった。 ③研修参加者の約9割が役に立つとの感想であり、グループワークで理解を深めることができたとの意見が挙がった。 地域ケア会議については13件（R6・12件）開催し、うち66.7%（R6・37.5%）がケアマネジャーからの相談であった。
今後の課題	①-1 高殿・高殿南地域での介護相談の場は複数開催しており、大宮地域でのつどいの場での介護相談会等の開催につなげる。 ①-2 前回訪問できなかった世帯やひとり暮らし高齢者のフォローアップや住宅管理会社や地域からの情報から気になる世帯へのアプローチ ②認知症の啓発を継続し正しい理解の普及につなげる。 ③複合的な課題を抱えるケース等が増加しており、ケアマネジャーの後方支援として、地域ケア会議のみならず、つながる場や成年後見専門相談等を活用していく。

※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和８年７月22日（水）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☑ 地域性　☑ 継続性　☑ 浸透性・拡張性　☑ 専門性　☑ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント ＊今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	ふれあい喫茶や百歳体操などの生活圏に出向く相談会に加え、「A集合住宅」という特定の地域スポットに着目し、地域の困りごとを直接吸い上げる活動を実践している。集合住宅に限らず、戸建住宅にも訪問してほしい。高齢者が世帯にいない若い層にも訪問し、周知活動ができると良い。独自のゲームリーダー養成講座やもの忘れの気になる人の会が安定して実施されており、持続可能な仕組みとして地域に定着している。特に、住民自身が担い手となるゲームリーダーの養成は、認知症予防の意識を地域社会へ深く浸透させる役割を果たしている。また、チームアプローチにより自立支援協議会高齢・障がい部会との合同研修会を開催し、地域ケア会議の推進を通じて障がい分野や他職種を巻き込んだネットワークを構築している。住民へのアプローチから専門職支援に至るまで、5つの視点すべてを満たしたバランスの良い成果を収めている。